

## H23 年度科学・技術関係予算概算要求 全体ヒアリング（外務省）

- 1 日時：平成 22 年 9 月 2 日 18:15～18:35
- 2 場所：中央合同庁舎 4 号館 12 階 1208 会議室
- 3 聴取者：相澤議員、本庶議員、奥村議員、白石議員、青木議員、中鉢議員
- 4 説明者：古屋科学技術協力担当大使
- 5 説明概要

冒頭、相澤議員から、今回の全体ヒアリングの進め方について「個別の施策についての話は行わず、省全体の科学・技術関係施策の概算要求の基本的考え方、最重点化課題の対応、来年度の独法における取組について確認したい」旨の説明あり。

引き続き、外務省から資料に基づいて説明（科学・技術関係要求・要望額：74 億円＋JICA 運営費交付金の一部）があり、さらに、予算措置は伴わないが昨年の優先度判定ヒアリングの指摘を踏まえた取組として、日本の研究者の海外出張の機会に在外公館が連携して講演会やプレス対応等をしている（例：野依理研理事長のドイツ出張時に開催した講演が好評であった）旨の説明があり、その後質疑応答。

### 6 説明のポイント

- ・科学技術外交戦略タスクフォース報告書、新成長戦略及び資源配分方針等に対応し、
    - 科学技術外交及び宇宙外交推進専門家交流関係経費の大幅増
    - 地球規模課題対応科学技術協力、我が国の環境・エネルギー技術の海外展開支援及びインフラ海外展開の基盤整備支援
- について要求

### 7 質疑応答模様

#### 【白石議員】

説明資料の P1 で要求額は 74 億円となっていて、そのうち専門家交流が 1114 万円。その他の大部分は何か。

#### 【外務省】

ほとんどが国際機関への分担金・拠出金となっている。IAEA 拠出金などである。

#### 【奥村議員】

新たに高等教育ネットワークの構築という事業が出ているが、この事業の概要は。

#### 【外務省】

JICA が、要望枠「インフラ海外展開基盤整備支援」の内数で行う、国際的頭脳循環のためのスキームである。JICA はアジア工科大学やインド工科大学等で支援を行っているが、これらを更に一歩進め、途上国の高度人材の育成や途上国とのネットワークの強化を図る。

【相澤議員】

津村政務官から、各省に共通して要請していることがある。今回の予算要求においては、新成長戦略の実現に結びつけるためにも、目標を明確にして、いつまでに何ができるのかを社会に分かりやすい形で示して欲しい。PDCA サイクルをしっかりと推進することが必要。個別施策ヒアリングの際に反映して頂きたい。

【中鉢議員】

科学・技術外交にフォーカスしてやっていくとのことだが、誰が旗振り役なのか。外務省なのか。説明資料の P2 に「外務省としても」と記載しており、主体的で無いように読める。

【外務省】

もちろん、外務省が主体的に科学・技術外交の旗振り役として取り組んでいく所存。外務省だけでは足りない部分もあるので、関係省庁との連携や総合科学技術会議の協力などに依拠せざるを得ない。また、外務省の在外公館等を有効に活用していく。

【青木議員】

高等教育ネットワークで、インド工科大学が含まれているようだが、技術的にはインドは先進国的なところがある。交流の主旨は何か。

【外務省】

インドは優れた国だが、JICA の援助対象国。非常に残念なことだが、修士クラスの優秀な学生のほとんどが欧米に行っている現状がある。できれば日本に来て頂くとともに、日本人研究者も現地に派遣し、育成していきたい。

以上